

本資料の情報開示につきましては、  
日本時間の 2026 年 5 月 15 日（金）13:00 以降 お願いいたします。

## カメラグランプリ 2026 決定のお知らせ



【最終版】

カメラグランプリ 2026 大賞

カメラグランプリ 2026 レンズ賞

あなたが選ぶベストカメラ賞

あなたが選ぶベストレンズ賞

カメラ記者クラブ賞【企画賞】【技術賞】

2026 年 5 月 15 日

---

カメラグランプリ 2026 実行委員会／カメラ記者クラブ

カメラグランプリ 2026 は、写真・カメラ専門の雑誌・Web 媒体の担当者の集まりであるカメラ記者クラブ（1963 年 9 月発足、2026 年 5 月現在 8 媒体 1 団体が加盟、代表幹事・柴田 誠）が主催し、カメラグランプリ 2026 実行委員会（実行委員長 大江 航）の運営のもと選考委員が組織され、2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日に発売された製品から各賞を選考いたしました。

カメラグランプリ「大賞」は、期間内に日本国内で新発売されたスチルカメラの中から、最も優れたカメラ 1 機種を選び表彰するものです。また、日本国内で新発売された交換レンズの中から最も優れた 1 本を選ぶ「レンズ賞」、一般ユーザーが Web 上の専用サイトから投票する「あなたが選ぶベストカメラ賞」「あなたが選ぶベストレンズ賞」（投票期間：2026 年 2 月 26 日～4 月 6 日）、カメラ記者クラブ会員が「大賞」「レンズ賞」を受賞した製品を除くすべてのカメラと写真製品・機材を対象に、大衆性・話題性・先進性に特に優れた製品を選ぶ「カメラ記者クラブ賞」の合計 5 つの賞を設けています。

選考委員は、カメラ記者クラブの会員をはじめ、加盟媒体の編集長（もしくは代表者）、カメラグランプリ実行委員が委託した外部選考委員、特別選考委員（学識経験者、カメラメカニズムライター、写真家、写真関連団体の代表等）で構成され、今年は総勢 57 名が選考にあたりました。各賞の選考理由は、選考委員の投票理由をもとにカメラグランプリ実行委員会です。各賞の受賞機種は以下のとおりです。

●カメラグランプリ 2026 大賞

ソニー α7V

●カメラグランプリ 2026 レンズ賞

ソニー FE 50-150mm F2 GM

●カメラグランプリ 2026 あなたが選ぶベストカメラ賞

キヤノン EOS R6 Mark III

●カメラグランプリ 2026 あなたが選ぶベストレンズ賞

キヤノン RF45mm F1.2 STM

●カメラグランプリ 2026 カメラ記者クラブ賞

【技術賞】リコーイメージング RICOH GR IV Monochrome

【企画賞】シグマ SIGMA BF

【企画賞】富士フイルム X half

※カメラグランプリマークは、カメラ記者クラブ（CJPC）が独占的に使用できる商標です。カメラグランプリを紹介するニュース記事制作以外の目的で使用することはできません。また、その場合でもマークの改変や部分的な使用は一切認められません。

●カメラグランプリ 2026 大賞

ソニー α7V



大賞

CAMERA OF THE YEAR

[選考理由]

AI プロセッシングユニットを統合した「BIONZ XR2」により、高度な処理能力と低消費電力を両立。部分積層型 CMOS センサーの搭載は、最大約 16 ストップに及ぶ広いダイナミックレンジと、14bit RAW でのブラックアウトフリー最高約 30 コマ/秒連写を可能にした。

フラッグシップ機譲りのリアルタイム認識 AF は、追従精度と信頼性をさらに一段引き上げている。全画素読み出しの 4K60p 動画や、自由度の高い 4 軸マルチアングル液晶モニターの採用など、表現者の多様なニーズを高い次元で充足させている。

従来の「ベーシック機」という枠組みを刷新し、フルサイズミラーレスカメラの新たなスタンダードを定義したその完成度は、選考委員から極めて高い評価を得た。最先端技術を幅広いユーザー層に開放した意義を称え、本機を大賞に選出した。

●カメラグランプリ 2026 レンズ賞

## ソニー FE 50-150mm F2 GM



# レンズ賞

LENS OF THE YEAR

### [選考理由]

50mm から 150mm までのズーム全域で開放絞り F2 を実現した世界初の大口徑ズームレンズ。超高度非球面 XA レンズ 2 枚を効果的に配置した革新的な光学設計により、単焦点レンズに迫る優れた解像力と自然でやわらかいぼけを描き出す。最大撮影倍率は 0.2 倍と高い近接撮影性能も備える。それらが質量約 1,340g (三脚座別) の軽量設計でまとめられ、機動性が求められるポートレート、ウエディングや室内イベント・スポーツなどプロフェッショナルの現場で評価され、「カメラグランプリ 2026 レンズ賞」に決定した。

## ●カメラグランプリ 2026 あなたが選ぶベストカメラ賞

### キヤノン EOS R6 Mark III



#### [投票理由]

以下に投票理由の一部を列挙する（一部抜粋／編集）

- ・ランクアップしたスタンダード機としてソツのない仕上がりになっており、これさえあればなんでも撮れるという安心感があります。
- ・EOS R5 Mark II と遜色ないカメラで価格は R5 より安い。CFexpress カードが使えるようになったので、もうこれで十分でしょと思わせるカメラ。
- ・CP+にて試し撮りを体験した際、ピントの精度やシャッターを切る心地よさに満足したから。
- ・4月から写真学科で学び始める身として、これからの数年間を共にする『信頼の基準』としてこの一台を選びました。スペックの数字以上に『撮り手の意図を裏切らない』という哲学を感じます。プロを目指す学生にとって、表現の基礎を叩き込むための最高の教科書であり、相棒になると確信しています。
- ・動きのある子どもや日常の一瞬をキレイに残せるからです。大切な思い出を、より鮮明に残せる1台だと思い選びました。
- ・EOS 5D Mark IVを彷彿とさせる全体的な完成度を感じるため。
- ・性能、重量、すべてにおいて、使うのにちょうどいいスペックだから。
- ・画質・価格のバランスが最も良い。

## ●カメラグランプリ 2026 あなたが選ぶベストレンズ賞

### キヤノン RF45mm F1.2 STM



#### [投票理由]

以下に投票理由の一部を列挙する（一部抜粋／編集）

- ・ 廉価で個性的しかも F 値 1.2。 レンズ開発陣に拍手したい！
- ・ 夢だった F1.2 レンズがこんなにも安く手元にきて驚いています。ポートレートやスナップ撮影が一段と楽しくなりました。高スペックだけじゃない方向で技術力を示したレンズとして選びます。
- ・ レンズが高解像度で高い方向性ばかりの所に現れたアンチテーゼ。もっと色々なベクトルのレンズが現れて欲しい。
- ・ ソニーユーザーですが、RF45mm は気になるレンズです。最新ですが、オールドレンズのような描写が楽しめる。F1.2 でありながら 6 万円台という破格の値段。使っていて楽しそうなので、一度使ってみたいレンズです。
- ・ RF レンズといえば高嶺の花だったが、F1.2 という明るさにもかかわらず信じられない価格。EF レンズ的设计を流用したレンズということで、今後も同じようなレンズの登場に期待したい。
- ・ 大口径レンズは高価で高性能、という固定観念を打破した新しいコンセプトの商品であるため。大口径は欲しいが究極の解像を求めているわけではない、というユーザーニーズに応えた。

●カメラグランプリ 2026 カメラ記者クラブ賞

**【技術賞】** リコーイメージング RICOH GR IV Monochrome



カメラ記者クラブ  
技術賞  
EDITORS CHOICE  
TECHNOLOGY AWARD



[選考理由]

APS-C センサー搭載のコンパクトカメラで初のモノクロ専用機。モノクローム表現を極めるため、モノクローム専用イメージセンサーを搭載し、カラーフィルターと補間処理を排し、GR レンズの優れた光学性能を引き出すことで、解像力、豊かなグラデーション、低ディストーション、GR レンズの真価をモノクロームで発揮。また、ND フィルターの代わりに赤色フィルターをレンズユニットに内蔵し、印象の強い写真を得ることができ、写真表現者の心を揺さぶる。「RICOH GR」シリーズ 誕生 30 周年を迎え、最強のスナップシューターに挑戦し続ける姿勢は、「カメラグランプリ 2026 カメラ記者クラブ・技術賞」に文句ない孤高の存在として評価した。

●カメラグランプリ 2026 カメラ記者クラブ賞

【企画賞】シグマ SIGMA BF



カメラ記者クラブ  
企画賞  
EDITORS CHOICE  
R & D AWARD



[選考理由]

“撮る”という行為の本質に立ち返る設計思想のもと、操作系および表示系を極限まで簡素化することで、撮影そのものに深く集中できる独自のユーザーインターフェースを実現した点を高く評価。さらに、アルミ削り出しによるユニボディ構造は高い剛性と工芸的な美しさを両立し、カメラというプロダクトの物質的魅力を大胆に表現する。

多機能化が進む従来の流れとは異なったアプローチからカメラの存在意義を問い直し、新たな価値と方向性を提示したその革新性は特筆に値する。

●カメラグランプリ 2026 カメラ記者クラブ賞

【企画賞】富士フィルム X half



カメラ記者クラブ  
企画賞  
EDITORS CHOICE  
R & D AWARD



[選考理由]

富士フィルム X half はフィルムカメラのハーフ判をモチーフにした縦位置撮影を基本とした新しいコンセプトのコンパクトデジタルカメラ。240g の小型軽量性で、フィルムカメラライクなルックスなど日常的な使いやすさで若年層にもアピール。

「期限切れフィルム」や「ミラー」「ライトリーク」など独特なフィルター効果も搭載。またライブビュー表示もなく画像再生もない、巻き上げレバーを巻かないと次の撮影ができないといった「フィルムカメラモード」を搭載するなど、デジタルカメラでありながらフィルムカメラのような撮影体験を提供するユニークなコンセプトを評価し、「カメラグランプリ 2026 のカメラ記者クラブ・企画賞」に選定した。

## 《カメラグランプリ 2025 選考委員》

カメラグランプリは、毎年カメラグランプリ実行委員会が組織され、記名投票で決定しています。カメラグランプリの選考には、カメラ記者クラブの会員に加えて、カメラ記者クラブ加盟の媒体責任者と各媒体が依頼した外部選考委員、さらにその年のカメラグランプリ実行委員が委託する学識経験者、カメラメカニズムライター、写真家などの特別選考委員によって行われます。カメラグランプリ 2026 の大賞とレンズ賞は 57 名（団体含む）の選考委員によって選ばれました。さらに、一般ユーザーの投票によって決定する「あなたが選ぶベストカメラ賞」「あなたが選ぶベストレンズ賞」、カメラ記者クラブ会員がすべての写真関連商品から選考する「カメラ記者クラブ賞」を加え、5つのカテゴリーで賞を授与しています。

### ●外部選考委員

赤城耕一、曾根原 昇、飯田ともき、阿部淳一、岡嶋和幸、中原一雄、阿部秀之、諏訪光二、豊田慶記、今浦友喜、福田健太郎、萩原れいこ、宇佐見 健、鈴木 誠、上田晃司、鹿野貴司、伊達淳一、葛原よしひろ、杉本利彦、吉森信哉、コムロミホ、大門美奈、ミゾタユキ

### ●特別選考委員

小城崇史（一般社団法人 日本スポーツプレス協会〈AJPS〉総務理事）、磯 修（株式会社マイナビ マイナビニュース編集部）、上田耕一郎（東京工芸大学 芸術学部写真学科教授）、小林 稔（日本レース写真家協会〈JRPA〉会長）、鹿野 宏（電塾塾長）、志村 努（東京大学名誉教授／宇都宮大学客員教授）、熊切大輔（公益社団法人 日本写真家協会〈JPS〉会長）、松任谷正隆（音楽プロデューサー・アレンジャー）、宮野友彦（株式会社 KADOKAWA 週刊アスキープロデューサー）、百瀬俊哉（九州産業大学 芸術学部写真・映像メディア学科教授）、櫻井龍子（日本カメラ博物館館長）、山田久美夫（DigitalCamera.jp 代表）、善本喜一郎（公益社団法人 日本広告写真家協会〈APA〉副会長）、萩原 亮（株式会社玄光社 ビデオサロン編集長）、椎名 達雄（千葉大学 大学院工学研究院准教授）、服部一人（日本大学 芸術学部写真学科教授）

### ●媒体責任者

森田浩一郎（Web カメラマン）、菅原隆治（CAPA 編集長）、福島 晃（デジタルカメラマガジン編集長）、折本幸治（デジカメ Watch 編集長）、松下大介（ホビージャパン代表）、石川 薫（風景写真出版代表）、藤森邦晃（フォトコン編集長）、村上仁一（Photo and Culture, Tokyo 編集長）、TIPA\* Board（Technical Image Press Association）

### ●カメラ記者クラブ会員

名川正彦（Web カメラマン）、松村広行（CAPA）、山岡佳久（デジタルカメラマガジン）、佐藤 拓（デジカメ Watch）、陶山佳秀（ホビージャパン）、永原耕治（風景写真出版）、大江 航（フォトコン）、佐々木秀人（Photo and Culture, Tokyo）、柴田 誠（TIPA）

## 《カメラグランプリ 2026 におけるマークのご使用について》

カメラグランプリマークは、カメラ記者クラブ（C.J.P.C./JAPAN）が独占的に使用できる商標です。カメラグランプリを紹介するニュース記事制作以外の目的で使用することはできません。またマークの改変や部分的な使用は一切認められません。

●表記する場合には、名称を略することなく、これに準じてください。

- ・カメラグランプリ 2026 大賞（欧文：Camera GP2026 Camera of the Year）
- ・カメラグランプリ 2026 レンズ賞（欧文：Camera GP2026 Lens of the Year）
- ・カメラグランプリ 2026 あなたが選ぶベストカメラ賞（欧文：Camera GP2026 Readers Award Camera）
- ・カメラグランプリ 2026 あなたが選ぶベストレンズ賞（欧文：Camera GP2026 Readers Award Lens）
- ・カメラグランプリ 2026 カメラ記者クラブ・企画賞（欧文：Camera GP2026 Editors Choice Technology Award）
- ・カメラグランプリ 2026 カメラ記者クラブ・技術賞（欧文：Camera GP2026 Editors Choice R&D Award）

※賞状、トロフィーにある「Camera GP JAPAN」は賞状、トロフィーのみの表記です。賞の正式名称は、カメラグランプリ（欧文：Camera GP）としてください。

●「あなたが選ぶベストカメラ賞」「カメラ記者クラブ賞」を賞の名称の入らない「マーク単独」で利用する場合、文中に日本語か欧文で賞の名称を必ず記載する必要があります。

\*日本語表記の場合 8Q（5.67pt）以上、欧文表記の場合 7Q（4.96pt）の文字サイズで、マークの縦の長さの3分の1以

内の範囲に記載してください（1ptは1/72インチとします）。また、読みやすい書体および色を利用して

ください。

●大賞とレンズ賞は「マーク単独」でも利用することができます。

●カメラグランプリマークは基本的にカラーで使用してください。モノクロインクのみを使用した印刷に限り、モノクロの配色でも使用できます。ただし最低でも横幅8mm以上の大ききで使用してください。

●縦横の比率を変えて使用することはできません。

●色の濃さを変えて使用することはできません。

●ほかの要素を重ねたり、ほかの要素を足したりすることはできません。

お問い合わせ先：

カメラグランプリ 2026 実行委員会 事務局長 永原耕治

[koji@fukei-shashin.co.jp](mailto:koji@fukei-shashin.co.jp)

\*カメラグランプリマークのデータをご希望の方も上記までお問い合わせください。